

名称等	市立図書館「文芸講座」の開催
実施日時	平成30年6月 1日(金)18時45分～20時45分(第1回) 6月15日(金)18時45分～20時45分(第2回) 6月29日(金)18時45分～20時45分(第3回)
場所	市立図書館4階 視聴覚ホール (沼津市三枚橋町9番1号 電話 055-952-1234)
担当	教育委員会事務局 市立図書館 代表 055-952-1234

1 内容

市立図書館では、市民の皆様にご覧いただき、文芸に関する理解と関心を深めていただき、図書館利用の啓発を図ることを目的として、毎年「文芸講座」を開催しています。

今年度も下記のとおり開催しますので、その受講者を募集します。

2 講座の概要と受講者募集 <全3回>

テーマ 「落語から見える江戸の人々の人間模様と日本らしさ
～落語を楽しみながらコミュニケーション力を磨く～」

講師 布村 敦 氏
(らくご笑クササイズ指南役、(株)MOTコミュニケーション代表取締役)

日程及び内容

第1回 6月 1日(金) 18:45～20:45(開場18:15)

落語でも江戸の町でもコミュニティの中心人物 ～世話好き? 大家、物知り? ご隠居

第2回 6月15日(金) 18:45～20:45(開場18:15)

江戸は商売、サービスの事始めの時代 ～商家の旦那、番頭、丁稚の1日

第3回 6月29日(金) 18:45～20:45(開場18:15)

戦のない平和な時代の器用で清貧の武家たち ～庶民にも愛された奉行やお侍

※各回の概要についてはチラシ裏面を参照

会場 市立図書館4階 視聴覚ホール

受講料 無料

対象 おおむね小学校5年生以上 (小学生の場合は保護者同伴)

定員 各回200人(先着順)

申込方法 電話または図書館カウンターにて受付

申込先 沼津市立図書館 電話 055-952-1234

その他 「平成30年度 しずおか県民カレッジ連携講座」の対象講座です

3 特徴

テレビの中では多くの噺家さんの姿を毎日のように見かけますが、果たして実際に落語を愉んでいる人はどの位いるのでしょうか。難しそう、なんとなく敷居が高いという印象から、興味はあってもなかなか手が出せないという人は意外に多いような気がします。落語は、話を聴いて、聴いた人の脳裏で映画やドラマのようにイメージを膨らませながら楽しむものですが、江戸時代の暮らしと全く変わってしまった現代では、イメージがわきづらいというのも敬遠される理由のひとつでしょう。

しかし、かつては娯楽の中心であり、誰もが気軽に楽しんでいた大衆文化の代表でした。また、文学としても読み応えのある作品が多数あります。庶民が活気づいていた元気な江戸時代を垣間見ながら、学ぶべきところ、日本人の心なども気づくことがあると思います。

講師の布村氏は、「らくご笑クササイズ」(※)を発案し、全国各地のお寺・図書館・カフェ・ホテル・蕎麦屋・ギャラリー・旧宿場などあらゆる場所とコラボしながら、落語をはじめとした演芸の面白さを伝えると同時に、笑いで人を元気にする活動を展開しています。

(※)落語の面白さと魅力、そして笑いは体と心の健康や脳トレに効果があり、コミュニケーション上手にもなれるというレクチャーと、参加型の脳活遊びを組み合わせたワークショッププログラム。

図書館では落語関連の図書やCD、DVDなどを多く取り揃えています。ぜひこの講座で落語に親しむきっかけをつかんでいただき、色々な演目を愉しんでみてはいかがでしょうか。

平成30年度 沼津市立図書館「文芸講座」

落語から見える江戸の人々の人間模様と日本らしさ ～落語を楽しみながらコミュニケーション力を磨く

落語は、噺家さんが全ての登場人物をひとりて演じ、登場する様々な人たちの会話を聞きながら、脳内で場面や人物像を映像化したり、イメージを膨らませて楽しむコンテンツです。様々な職業、立場の人たちの繰り広げる人間模様を中心に描いている落語には、面白さ、ユーモア、洒落を軸にしつつも、心が通う人と人のつながりやコミュニティ、日本人らしさ、道徳なども上手に散りばめられています。

今回は、江戸の文化や暮らしを紹介しながら落語を鑑賞します。また、「らくご笑クササイズ」として落語を活用した健康づくりや脳活法(認知症予防)などについてもご紹介します。

第1回 6月1日(金) 18:45～20:45

落語でも江戸の町でもコミュニティの中心人物

～世話好き? 大家、物知り? ご隠居



第2回 6月15日(金) 18:45～20:45

江戸は高売、サービスの事始めの時代

～商家の旦那、番頭、丁稚の1日



第3回 6月29日(金) 18:45～20:45

戦のない平和な時代の器用で清貧の武家たち

～庶民にも愛された奉行やお侍

講師 布村 敦 氏 ^(エ) らくご笑クササイズ指南役

※講師プロフィール・各回の概要は裏面をご覧ください

会場 4階 視聴覚ホール(開場は各回30分前) 定員 各回 200名

対象 おおむね小学校5年生以上 (小学生の場合は保護者同伴)

申込方法 5月8日(火) 9:30から 電話または図書館カウンターにて受付

「らくご笑クササイズ」ってなに?

落語の面白さと魅力、そして笑いは体と心の健康や脳トレに効果があり、コミュニケーション上手にもなれるというレクチャーと、参加型の脳活遊びを組み合わせたワークショッププログラム。

★申込・問合せ先★ 沼津市立図書館 ☎ 055(952)1234





講師プロフィール

(エ)

らくご笑クササイズ指南役

ぬのむら あつし

布村 敦

「らくご笑クササイズ」をはじめ、全国各地で演芸や和文化を活用したワークショップやイベントなどを企画、実施しているコミュニケーションプロデューサー&プランナー。人と人、人と街をつなぐために、「文化」「元気」をキーワードに、本や雑誌、パンフレット、webなどの編集、執筆、イベントの企画・制作、空間づくり、地域活性化まで幅広く取り組んでいる。

各回の概要

※落語は動画で二席ご鑑賞いただきます。

演目は、参加者の方々の年代などによりテーマに沿った演目をご覧いただきます。

第1回 落語でも江戸の町でもコミュニティの中心人物

～世話好き？ 大家、物知り？ ご隠居

江戸の庶民の共同住宅「長屋」。今で言えばアパートのようなもので、落語の話では「長屋」は数多く噺の舞台となっています。長屋の「大家」さんは、住人の良きアドバイザーであり町内の調整役、世話役でもあり、時には親のような深い愛情で親身に相談に乗り、手助けもしていました。「ご隠居」も長屋の一角の少し広めの区画に住まい、趣味人でもあり、広い見識で知恵袋として、みんなに頼りにされ、愛され、毎日いろいろな人がご隠居のところを訪れます。落語の世界では欠かせない登場人物である、「大家」さん、「ご隠居」さんに着目して、江戸時代のコミュニティや人々の暮らし、人間模様を振り返ってみましょう。

○らくご笑クササイズ「笑いと井戸端会議は簡単なのに効果絶大の認知症予防と健康づくりに」

第2回 江戸は商売、サービスの事始めの時代

～商家の旦那、番頭、丁稚の1日

平和の世の中になり庶民も貨幣を使ってモノを売り買いするようになった江戸時代。100円均一のような均一店や、デパ地下のような総菜店、売り方も広告も各店舗で様々な工夫がなされ、まさに商売やサービスの事始めの時代です。そんな商売の舞台が、大店、商家では、寺子屋を出て店に入って下働きや高いの基本を身につける見習いである「丁稚」、一通りの事ができるようになりお客様の相手ができる店員「手代」、お店の従業員をまとめるのは「番頭」さんが働いていました。お店の顔である「旦那」は、日々の営業は番頭に任されていることが多かったようです。商業が盛んになり、今に通じるサービスの生まれた江戸時代、仕事や商売におけるコミュニケーションが、落語からも見えてきます。

○らくご笑クササイズ「落語から学べる仕事、社会でのコミュニケーション術」

第3回 戦のない平和な時代の器用で清貧の武家たち

～庶民にも愛された奉行やお侍

身分制度のあった江戸時代、武士は上の立場でしたが、戦がなくなった平和な時代では手柄も給金もなかなか上がらずに、内職や節約でやり繰りをしたり、やり繰りに苦しむお侍も少なくありませんでした。刀は差していても役人、今でいう公務員の仕事が主で、大岡裁きなどの名お裁きで名を馳せた「奉行」は、落語の世界でも庶民に人気者です。田舎侍や間抜けなお侍は落語の格好の素材になっていますが、貧しいながらも志ある浪人なども描かれている噺もあります。落語の中の侍をみていると、江戸時代の和やかさや寛容さが見えるようにも思います。

○落語+αトーク:「落語で脳を活性化すれば認知症もコミュニケーションも怖くない！」

☆「図書館寄席」2018年7月1日(日)開催☆ ※詳細については、「図書館寄席」のチラシをご覧ください

○ぬまづ図書館寄席+おやこで落語&寄席入門 11時～

○ぬまづ図書館寄席+らくご笑クササイズ 14時20分～

落語:三遊亭鳳志/三遊亭兼太郎/三遊亭じゃんけん 太神楽:春本小助・鏡味小時

らくご笑クササイズ指南役:ぬのむらアツシ